



ぷっくりハート育成事業 枝川小公開授業



令和4年1月26日(水)に、枝川小学校の公開授業と学校版寺子屋がありました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からリモートでの公開となりましたが、教育委員会事務局職員や小中学校の先生方合わせて11名が参観しました。

公開授業: 第4学年理科「もののあたたまり方」

導入では、前時までの学習を基に水はどのように温まるかを予想した。授業者の北岡教諭は「金属と同じか違うか、決めた人は立ちましょう。」と、子どもを動かしながら自己決定させた後、ワークシートに予想を記入させた。

次に、児童は自由な立ち歩きをして、友達と意見を交流した。授業者は「友達と意見が違った時がチャンス。どうして?と聞いてみよう」と対話を促した。全体では、金属と「同じあたたまり方だ」「違う」「その他の考え方」の意見を発表した。その後、同じ考えの児童のホワイトボードにネームプレートを貼ることで全員が意思表示をした。そして、出た意見に質問をしたり、違うと思う理由を主張したりした。その考えに納得し、最初とは意見を変える児童が数名いた。北岡教諭は「考えを変えて、柔軟な思考だね」と価値づけた。

それから、授業者は、もう一度友達と意見を交流する時間を設定し、最終的な意見を黒板に貼らせた。最後に、水のあたたまり方の実験動画を視聴して結果を確かめ、振り返りを書いた。



授業者の振り返り(北岡 浩介 教諭)

しっかり考えられるような課題の設定を意識している。4月からペア・グループで意見を交流させてきた。児童は「なんで?どうしてそう思う?」と聞くことができ始めた。今回はネームプレートを使って立場を決めさせた。

また、意図的指名を取り入れた。指名の順がどうだったのかということと、あえてあまり取り上げなかった意見があったが、それは良かったのか。

参観者より

- ・「考えが違うとき、深まるチャンス」という声かけがよかった。
- ・児童の意見が変わった時、何を根拠に変わったか「見える化」したらよい。
- ・中にはワークシートを見せ合うだけの子もいた。どんな交流にしたらよいか。
- ・意図的指名の際、先生が当てて発表になってしまった。最初は挙手させてもいいのでは。



菊池先生より

素晴らしい授業でした。「金属と同じ」という意見の子が何人か抜けたことを北岡教諭はほめていました。「参りましたはかっこいい」と価値づけましょう。「参りました」と言ったらみんなから拍手をうけるくらい盛り上がります。また「質問や意見を言いましょう」と「つぶし合いをしましょう」では子どもの意識が違います。後者は質問せざるを得ません。

ネームプレートを貼って、理由の根拠の強さ比べをする場面がありましたね。とても良かったです。意見を言い切って、それが強ければ認められるというのは、ディベートです。ディベートはチームで相手の意見をつぶし合いますから、平等に意見を言う「番」が来ます。何を誰がどのように言うのかが大事になります。言われる方も、答える番が来るから構えます。そういう話し方のフォーマットを学ぶと、安心して話し合えます。いい意味で勝ち負けがある話し合いをいろいろな場面で取り入れてみてはどうでしょう。

学校版寺子屋「自分らしさが発揮できる学級づくりのポイント～3学期から次年度を見通して～」

学級閉じ

同じ学級は二度とありません。限られた時間の中でどう関わるかを考えましょう。

- ほめ言葉のシャワー
クラスの友達以外にほめを送るなら、どんなことができるかアイデアを出しましょう。「いの町へ」「ALTの先生へ」等あると思います。ほめることが楽しいと思える学級を作りましょう。
- 価値語
学級独自のカレンダーのように、何かチャレンジをさせて成功体験を積みませましょう。（例：卒業までの日めくりカレンダー、好きな価値語を決めさせる等）
- 成長ノート
卒業式の一日前に10番が来るように、毎日成長ノートを書かせる「試練の10番勝負」をしましょう。10番目に聞くことは、教師が一番大切にしてきたことです。私の場合は「言葉の力とは何か」です。子どもの答えは、先生の通信簿になります。



学級開き

- 教師と子どもの関係
学級開きでは「先生のお話」ではなく、「先生への質問」にしましょう。先生が話したいことと、子どもが聞きたいことはずれています。色々質問させて、その度に話し方や態度、質問内容などをほめることで、目指す話し方や態度などを身に付けさせるのです。



教育委員会事務局（菊池学園担当）より

いの町は「豊かな対話を通して、学び続ける子どもを育てる」ことを目標にこの取組をしています。北岡教諭は、授業中にも価値語を使って子どもをほめていました。また「立ち歩きしましょう」と指示を出していました。「立ち歩き」がプラスの意味で使われていたのがよかったです。これからも、いの町が目指す教育の実現のために、取組を進めていただきたいです。（文責：乾孝治）

教育研究所より

公開授業をしてくださった枝川小学校の皆様、ありがとうございました。当日はリモートでの公開でしたが、子ども達は友達に質問したり、意見を述べたりと、活発に話し合う様子が見られました。素敵な授業を公開していただき、ありがとうございました。

枝川小学校が今年度最後の公開授業研でした。年間を通して「対話・話し合いのある授業の成立」を目指してきました。枝川小のように、他の学校でも成果が見られていることと存じます。1年間、ご協力ありがとうございました。